

<特集補遺「受動表現」>

言語データ「受動表現」
—クメール語—

Data, Special Issue: “Passive expressions”
-Khmer-

上田 広美
Hiromi Ueda

東京外国語大学大学院総合国際学研究院
Tokyo University of Foreign Studies

要旨：本稿は、特集「受動表現」の調査票に基づきクメール語の資料を収集したものである。

Abstract: This article provides Khmer data collected by using the questionnaire prepared for the special issue “Passive expressions”.

キーワード：クメール語, カンボジア語, 受身

Keywords: Khmer, Cambodian, passive

1. はじめに

上田(2009)では、文学作品中の用例を調査し、クメール語の受動表現は[受動動詞 /trəv/ + N (動作主) + V (動作)]という構文をとることを確認した。この/trəv/は、物理的に何かが「ぶつかる」、もしくは、答えやくじが「当たる」ことを意味する本動詞としても用いられる。

以下、アンケートに従って言語データを示す。同一の例文番号に複数の例文(a, b, 等)が掲載されている場合には、先に受動表現の例を、その後に能動表現の例を挙げた。例文番号に付した*は不適格であると判断されたことを示す。上田(2009)では、受動表現が、不利益を表わす場合に使用される(坂本:1988)のか、あるいは、許容度が高くなっており広く使用される(福田:1976)のか、先行研究の指摘についても確認した。

本調査でも、上田(2009)と同じく、*が付されていない例文であっても、このアンケートの例文の内容を表すには受動表現は不自然であると判断された。また、本調査では、[受動動詞 /trəv/ + N (動作主) + V (動作)]に加えて、[受動動詞 /trəv/ + V (動作) + /daoj/ ¹ + N (動作主)]の構文も可能か調べた。しかし、このように前置詞句で動作者を示す構文はさらに許容度が低かった。例文とそれに関する判断は、バン・ソバタナ氏²にご教示いただいた。以下、本稿の表記は音韻表記で、坂本(1988)に従う。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

¹ この/daoj/は、手段を表す前置詞として、また連用修飾節の標識として用いられる。

² カンボジア王立プノンペン大学社会人文学部国文学科教員。本稿へのご協力に深く感謝する。

2. データ

1. A は B に叩かれた³.

- 1a) A trəv B vèəj
 PSN PASS PSN hit
- 1b)* A trəv vèəj daoj B
 PSN PASS hit by PSN
- 1c) B vèəj A
 PSN hit PSN

直接受身の例文であるが、(1c) の能動表現の方が一般的である。受動表現は、話者によって容認度が異なる。とくに、(1b) の前置詞句を用いた受動表現は、英語の文法をあてはめた不自然な文と感じられる⁴。

2. A は B に足を踏まれた。

- 2a) A trəv B cəən cəəŋ
 PSN PASS PSN step on foot
- 2b) B cəən cəəŋ A
 PSN step on foot PSN

持ち主の受身（体の部分）の例文も、(2a) の受動表現より、(2b) の能動表現が一般的である。

3. A は B に財布を盗まれた。

- 3a) A trəv B luoc kaboop løj
 PSN PASS PSN steal wallet
- 3b) B luoc kaboop løj A
 PSN steal wallet PSN

持ち主の受身（持ち物）の例文も、(3a) の受動表現より、(3b) の能動表現が一般的である。

4. 昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。それでちっとも眠れなかった。

- 4a*) jòp məŋ kɲom trəv koon jòm ròmkhaan ròəhoot
 last night 1SG PASS child cry disturb the whole time
 doocneħ kɲom deek mun lòk tè
 CONJ 1SG lie down NEG sleep PTCL
- 4b) jòp məŋ koon kɲom jòm ròmkhaan ròəhoot
 last night child 1SG cry disturb the whole time
 doocneħ kɲom deek mun lòk tè
 CONJ 1SG lie down NEG sleep PTCL

自動詞からの間接受身の例文は、(4a) の受動表現は不適格であった。(4b) の能動表現を用いる。

³ 人名は、読みやすさを優先し、アンケートの A と B をそのまま用いた。

⁴ /daoj/を用いた表現はあまりに不自然と判断されたため、次の 1-2 以降、基本的に /daoj/を用いた表現は掲載しない。

5. 新しいビルが (A によって) 建てられた.

5a)* ʔaakèə tməj trəv saan səŋ daoj A
 building new PASS construct by PSN

5b) A saan səŋ ʔaakèə tməj
 PSN construct building new

モノ主語受身 (一回的) の例文は, (5a) の受動表現は不適格であった. (5b) の能動表現を用いる.

6. カナダではフランス語が話されている.

6a)* nəv prəətèeh kaanaadaa phèəsa barəŋ trəv kèe niijèəj
 in country Canada language France PASS 3PL speak

6b) nəv prəətèeh kaanaadaa kèe niijèəj phèəsa barəŋ
 in country Canada 3PL speak language France

モノ主語受身 (恒常的. 動作主が問題にならない場合) の例文は, (6a) の受動表現は不自然である. 福田 (1976) の指摘したように「/kèe/ という不特定・不定数の3人称代名詞」を用いる能動表現を用いる. 上田 (2009) では, 「一部の人によってのみフランス語が話されている」というように, 動作主を明示したい場合には, 前置詞句を用いた受動表現も可能であると判断されたが, 今回の調査ではそのような場合にも, やはり不自然な文であると判断された.

7. 財布が (A に) 盗まれた.

7a) kaabooj ləj kɲom trəv baan A luoc
 wallet 1SG PASS get PSN steal

7b) A luoc kaabooj ləj kɲom
 PSN steal wallet 1SG

モノ主語受身 (モノ主語の背後に被影響者が想定される場合) の例文は, (7a) の受動表現より, (7b) の能動表現が一般的である. (7a) は, /baan/ があることで容認度があがっている可能性がある.

8. 壁に絵が掛けられている.

8a)* nəv ləə cəŋcəəŋ ruup kòmnuu muoj trəv kèe pjuo tok
 on wall picture one PASS 3PL hang keep

8b) nəv ləə cəŋcəəŋ kèe pjuo ruup kòmnuu muoj
 on wall 3PL hang picture one

モノ主語受身 (結果状態の叙述) の例文は, (8a) の受動表現は不適格であった. (8b) の能動表現を用いる.

9. A は B に / から愛されている.

9a) A trəv B srəəlap
 PSN PASS PSN love

9b) B srəəlap A
 PSN love PSN

感情述語の受身の例文は, (9a) の受動表現より, (9b) の能動表現が一般的である.

⁵ クメール語の3人称代名詞は複数存在するが/kèe/は, 不特定の人(々)も表わす.

10.

10-1 AはBに／から「...」と言われた.

10-1a)* A trəv B prap thaa ...
PSN PASS PSN tell that

10-1b) B prap A thaa ...
PSN tell PSN that

10-2 AさんはBさんに呼ばれて、今Bさんの部屋に行っています.

A trəv B hav ʔəoj tət bəntəp B bat haəj
PSN PASS PSN call CAUS go room PSN disappear PRF

10-3 BさんがAさんと呼んで、Aさんは今Bさんの部屋に行っています.

B hav A haəj A tət bəntəp B bat haəj
PSN call PSN PRF PSN go room PSN disappear PRF

伝達動詞の受身の例文は、上田（2009）の調査では受動表現を使うことができたが、本稿の調査では、（10-1a）は不適格な文であると判断された。個人差だけではなく、伝達の内容によって容認度が異なるとも考えられる。

3. おわりに

以上、自動詞からの間接受身（4）、モノ主語の受身の一部（5）（6）（8）伝達動詞の受身（10）をのぞくと、クメール語でも受動表現は可能であった。しかし、本稿のアンケートの例文のような日常的な内容については、能動表現を用いる方が好まれた。動作主が不明である場合にも、代名詞 /kèe/ を用いていた。

本稿のアンケートに含まれていない例文を観察すると、上田（2009）で調査した文学作品に比べ、近年のウェブサイトの記事や官公庁の報告書に見られる翻訳調の文体では、受動表現が頻出している。特に過去の出来事に関しては、[受動動詞 /trəv/ + 動詞 /baan/ + N（動作主）+ V（動作）]という構文の例文が多数みられた。この事象に関しては、文体の差によって受動表現が用いられているとも考えられる。動詞 /baan/の用法とあわせて、今後あらためて考察をしたい。

略語は以下の通り。使役 CAUS, 接続詞 CONJ, 1 人称 1, 否定 NEG, 文末詞 PTCL, 受身 PASS, 完了 PRF, 人名 PSN, 複数 PL, 2 人称 2, 単数 SG, 3 人称 3, 自由交替 /

参考文献

欧文

Nomura, Naomitsu Mikami. 1992. "A semantic analysis of the so-called passive verbs in some Indochinese languages" *Mon-Khmer Studies*, 21 pp.91-106.

和文

上田広美.2009.「クメール語の受動表現について」、『語学研究所論集』, 14, pp.113-123.

坂本恭章.1988.「クメール語」、『言語学大辞典第1巻世界言語編（上）』, pp.1479-1505, 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一編, 三省堂.

福田権一.1976.「カンボジャ語の受動文について」、『中京大学文学部紀要』11.1, pp.1-21.

執筆者連絡先: uedahiro@tufs.ac.jp

原稿受理: 2019年12月3日